

水不足対策の強化求め市長に要請

日本共産党上越地区委員会と上越市議団

前号でお知らせしましたように市内山間部では水不足から代かきができない、田植えができないなど深刻な事態になっていると聞いています。

こうした状況を踏まえて、日本共産党上越地区委員会と上越市日本共産党議員団は5月30日、中川市長に農地の水不足対策の強化を求めて要請書を出しました。

この要請書は佐藤誠司農林水産部長が受け取り、市長に伝えるとのべました。要請した内容は次の3項目です。

1、水不足の状況をしっかりと把握するため、農家からの報告を基本としつつも、行政として積極的に調査に

入ること。その上で、直ちに、昨年のような支援の準備、実行に移ること。

2、現行の国庫の補助金制度では、ため池整備・維持管理ができないところがあるが、関係農家の声をよく聞いたうえで、市独自の補助金制度を早急に検討すること。

3、昨年の干ばつ被害対策においては、関係農家、生産組織などの声をよく聴き、抜本的な対策を講じることを約束していただいたが、その約束を守ること。

左のイラストは佐藤部長と懇談している様子を描きました。



畔が落ちた田んぼ、関係農家は悲鳴

先月28日から29日にかけて降った雨で、田んぼの畔が崩落するなどの農地・農業用施設災害が発生しています。このうち、牧区坪山で発生した災害（右下の写真）については、日本共産党議員団が現地調査をし、復旧支援に動き出しています。

上越地域で、先月28日からの24時間降雨量は多いところで60数ミリに達しました。しかし、国の農地及び農業用施設の災害復旧事業では、24時間雨量が80ミリ以上（あるいは時間雨量が20ミリ以上）を基本的な申請要件としていることから、牧区坪山などでは基準となる数値に達していないとして災害復旧事業の対象になりませんでした。

こうした事態のなかで関係農家からは、「昨年の干ばつや能登半島地震の影響もあるのではないか。納得できない。何とかしてほしい」という声が上がっています。

日本共産党議員団では、30日の水不足対策強化を求める市長要請の際もふれましたが、私が一般質問でこの対策について質問することになりました。今後は県議や国会議員とも連携して、関係農家を支援していく考えです。

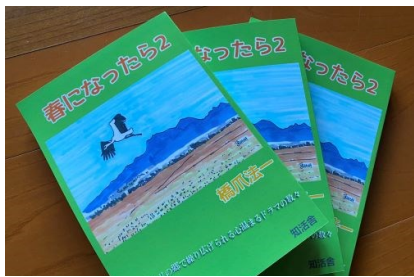


【ウンナンナツロウバイ】ロウバイ科の落葉低木。漢字で「雲南夏蠟梅」と書きます。樹高は2～5m、葉は卵形です。花期は初夏、薄桃色の花を咲かせます。春に黄色の花を咲かせるロウバイとは感じが違います。花言葉は、「先導」「慈愛」「優しい心」。写真は6月2日、吉川区にて撮影しました。

最新エッセイ集、『春になったら2』

私の12冊目のエッセイ集、『春になったら2』が4日、発売となりました。

今回の本は2020年2月から1年ほどの間の家族、親戚の出来事や地域の人たちとの交流などをエッセイとしてまとめています。定価は税込みで1595円です。ご希望の方はアマゾンに直接注文するか私に連絡ください。市内は配達します。



3日の地震にも耐えたコウノトリのヒナたちです。もうひと月ほどで巣立ちます。

はしづめ法一の活動レポート

No.2159 2024.6.9

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL https://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八〇六回

思い出の花

一つの花が懐かしい人とつながっていて、花を見るとその人を思い出す、ということがありませんか。

先だつての日曜日のことです。吉川区の山間部にある専徳寺に用があつて行ったところ、前任職のお連れ合いの眞知子さんからお茶を飲みませんかかと勧められました。お茶会の場には、亡き弟の同級生であるY子さんとお連れ合いの姿がありました。

偶然、花好きの人が何人も集まつたことから、この日はお茶をいただいているときも外に出て庭園を見せていただいていた時も花をめぐる楽しい話が続きました。

眞知子さんから出していただいた細いウドとワラビの漬物をご馳走になりました。最初に話題になったのは、ネコヤナギの花でした。

ネコヤナギは大湊区に住んでいた弟の勇やお世話になった一人の大工さんとの思い出につながっています。

弟は毎年のように、蛭場の川のそばからネコヤナギを採ってきていました。その動きを見て、私は近くの吉川橋の上流右岸にあるネコヤナギの様子を見に出かけたものです。

ちょうど新しいエッセイ集の出版が間近だったこともあり、Y子さんに「今回の本の中にもY子さんの名前が入っていますよ」と言いました。本の中には、数年前、急に亡くなった大工さんの所へネコヤナギを持ってお参りに行ったときのことを書いたものが入っていました。「春ですね」という題名です。その文章の最後にY子さんのことをちよっぴり書いていたのです。

お茶会では、「ネコヤナギに触った時の感じ、いいよね」「懐かしいね」などと言いながら弟などの思い出に浸りました。

お茶をいただいたいた場所からは、外の庭木が見えます。眞知子さんは「あそこの淡いピンク色の花はウンナンナツロウバイ

というんです。ウンナンは雲南省の雲南です。そのそばにある白い花はサンショバラです。山椒の木のあのサンショです」と説明してくださいました。いずれの花も私が初めて見る花でした。

お茶会后、みんなで庭に出て、駐車場の近くでツリガネニンジン等の茎や葉を見ているときでした。すぐそばで、ドクダミが白い小さな花をきれいに咲かせていました。

この花を見ると、千葉県習志野市に住んでいた叔父を思い出します。叔父が亡くなる数年前、叔父と共に労災病院に入院していた母の実家の伯父を見舞い、直江津駅前の食堂、「多七」で食事をしました。私の記憶では、叔父との最初で最後の食堂での食事でした。そのとき、伯父は、「次はおれだよ」とボソッと云ったのです。

叔父の葬儀の時、叔父の家の近くにあるお寺に泊めてもらいました。告別式の朝、散歩をしていて、その年に初めてドクダミの花を見ました。見た瞬間、こんなにきれいな白い花だったかと驚きました。その印象が強かったので、ドクダミの花を見るたびに、叔父との思い出が浮かびます。

専徳寺の北側の庭ではクリンソウの花がいくつも咲いていました。眞知子さんがY子さんに分けてあげますよということになって、その作業をされているとき、私はその先の池を見ました。池の中を見ると、緑の葉に囲まれた鮮やかなピンクのスイレンが咲いていました。そのスイレンを見て私は数年前、前任職と一緒にお茶飲みをさせてもらった時のことを思い出しました。

その際も、「モリアオガエルがいるんですよ」と言われたのですが、緑色のカエルを見つけた後、池の中のスイレンが目に入りました。その美しさに惹かれ、池のそばまで行ったのは言つまでもありません。そのスイレンがまた咲いている。私は、なぜかうれしくなりました。

青空の下、懐かしの歌声響く

6月1日は大湊かっぱ祭りへのメイン会場に行く、と「ここは東京か」と思うくらいの混みようでした。これまで何回も観ている地元のコミュニティバンド、「ピアス」の演奏が楽しみでした。舞台の近くまでいったところで演奏はスタート、「ヤングマン」など懐かしい曲をいっぱい聴かせてもらいました。途中からは「幾子さん」の



三味線も加わって、これまでにない素敵な演奏となりました。

市内小中学校で体育祭

いま、市内の小中学校で体育祭が行われています。

1日は吉川中学校の体育祭へ行ってきました。全校生徒は約60人の開会式後、10時過ぎまで全校リレー、タイヤ取り、島取合戦などの種目で生徒のみなさんの頑張りを見てきました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月29日(水)	6月5日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.047	0.040
頸北消防署	0.057	0.057
頸南消防署	0.063	0.067
東頸消防署	0.043	0.047
名立分遣所	0.063	0.057
高士分遣所	0.050	0.053